

令和 5 年 10 月の解説（府県天気予報）

【10 月の天候状況】

上旬は、北日本では、一時的に低気圧や低気圧通過後の寒気の影響を受けやすかったため、旬降水量は北日本日本海側でかなり多かった。6 日には発達した低気圧の影響で大荒れとなった所があった。東・西日本では天気は周期的に変わり、8 日から 9 日にかけて本州南岸を通過した低気圧の影響で、大雨となった所もあった。沖縄・奄美は、台風第 14 号や前線の影響などで曇りや雨の日が多かった。北・東・西日本で長く続いていた気温のかなり高い状態は、偏西風の南下により解消したが、日本近海の海面水温が顕著に高い影響を受けやすかった北日本では、旬平均気温は高かった。また、旬を通して暖かい空気に覆われやすかった沖縄・奄美では、かなり高かった。

中旬は、北日本では、旬の前半は移動性高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、後半は北日本日本海側を中心に低気圧や上空の寒気の影響を受けやすかった。このため、旬降水量は北日本日本海側で多かった。20 日頃は北日本を中心に低気圧の影響で大雨となった所があった。一方、旬間日照時間は北日本太平洋側でかなり多かった。東・西日本では移動性高気圧に覆われて晴れた所が多く、旬間日照時間は東日本日本海側と東日本太平洋側でかなり多かった。15 日には本州南岸を通過した低気圧の影響で東日本太平洋側では大雨となった所があった。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。気温は、北日本ではオホーツク海付近を進む低気圧に流れ込む暖かい空気に覆われた時期があったことや、寒気の影響が一時的だったため、旬平均気温は高かった。

下旬は、全国的に高気圧に覆われ、晴れた所が多くなり、旬間日照時間は全国的に多く、北・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側でかなり多かった。1961 年の統計開始以降、10 月下旬として、東日本太平洋側（平年比 156%）、西日本日本海側（平年比 157%）、西日本太平洋側（平年比 162%）では 1 位の多照となった。旬降水量は東・西日本太平洋側でかなり少なく、北・西日本日本海側と北日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。一方、一時的に低気圧や低気圧通過後の寒気の影響を受けやすかった東日本日本海側で多かった。北・東日本を中心に 27 日から 28 日にかけて大雨となった所があった。旬平均気温は、寒気の影響が一時的だった北日本で高かった。一方、寒気の影響を受けやすかった西日本で低くなった。東日本と沖縄・奄美では平年並だった。

【10 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 4 ポイント高い 89%で、明後日予報は例年値より 6 ポイント高い 88%でした。地方別の適中率では、明日予報では、東北、沖縄地方以外の全ての地方で平年値を上回りました。明後日予報では、沖縄地方以外の全ての地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4℃小さい 1.1℃で、全ての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.1℃で、全ての地方で例年値と同じか例年値よりも小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12月の天気予報の利用にあたって】

12月には、本格的な雪の季節の始まりです。低気圧が発達しながら日本付近を通過して強い冬型の気圧配置となるときには、北日本や東日本と西日本の日本海側では大雪や暴風雪により、交通機関への大きな影響や大規模な停電などの被害が発生するおそれがあります。各地の気象台で発表される最新の気象情報や早期注意情報、注意報、警報等に留意し、事前の備えをしてください。